

東京医療保健大学千葉看護学部シラバス

| 科目分類 | 養護教諭課程 | | | 開講学科 | 看護学科 | | | | | |
|---|--|---------|----|------|-------|--|--|--|--|--|
| 科目番号 | 学年 | 配当セメスター | 区分 | 単位数 | 授業時間数 | | | | | |
| 14003 | 2 | 前期 | 選択 | 2 | 30 | | | | | |
| 授業科目名 (英文) | 教育心理学 (Educational Psychology) | | | | | | | | | |
| 担当教員名 | 岩田 美保 | | | | | | | | | |
| 授業の概要及び到達目標 | | | | | | | | | | |
| 授業の概要 はじめに発達と学習の概念、心理学的な位置づけなどについて講義する。そして、発達と学習との基本的なメカニズムについて、遺伝か環境か、行動か認知かといったいくつかの視点を提示しその理解を深める。さらに、発達については、幼児期から青年期に至る各段階での発達について、認知、社会性、コミュニケーション、対人関係などの各側面から検討する。また、学習については、教授—学習過程の諸問題をとりあげ、それに加え、学習を支える動機づけや、学業に関する不適応や意欲低下などの問題にも触れてゆく。 | | | | | | | | | | |
| テーマ 教育に携わる者として知っておくべき幼児・児童・生徒の心身の発達と学習の基本的な概念、そのメカニズム、および、その学校教育での応用可能性について扱う。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 幼児・児童・生徒の心身の発達と学習について、教育心理学的な知見にもとづきながらそれらの概念を理解し、それらのメカニズム、学校教育での応用などについての基本的な知識を身に着ける。さらに、それらの知識を学習指導、生徒指導などにおいて役に立てる能够性をもつようとする。 | | | | | | | | | | |
| 準備 学習 等 | | | | | | | | | | |
| 特になし | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 毎回の授業終了時に実施する小レポート (20%)、定期試験 (80%) | | | | | | | | | |
| テキスト | 特に指定しない | | | | | | | | | |
| 参考図書 | 小山義徳編著 岩田美保・大芦治・樽木靖夫・野中舞子・伏見陽児・真鍋健著, 「基礎から学ぶ教育心理学」, サイエンス社, 2018年 | | | | | | | | | |
| 備 考 | <ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：授業終了後、教室で受け付ける。 ・課題・レポートに対するフィードバックの方法 レポートについて添削後返却するので、振り返り学習に活用する等、良くな復習すること。 | | | | | | | | | |

| 授業計画 |
|-----------------------------------|
| 第1回：教育心理学からみた発達と学習—その学問的背景 |
| 第2回：発達とは何か：発達段階と発達課題 |
| 第3回：発達の規定因：遺伝か環境か |
| 第4回：乳幼児期の有能性 |
| 第5回：愛着の発達：心的発達を支える関係とコミュニケーション |
| 第6回：認知発達：ピアジェの認知発達理論、ピアジェ以後の考え方 |
| 第7回：社会性の発達：友人関係、遊び、道徳性、向社会的行動 |
| 第8回：行動論からの学習理解：条件づけとその応用 |
| 第9回：認知論からの学習理解（1）：記憶 知識獲得 |
| 第10回：認知論からの学習理解（2）：理解 熟達化 |
| 第11回：学習と教授法（1）：プログラム学習、スキーマと教材の構成 |
| 第12回：学習と教授法（2）：教授学習過程と教育評価 |
| 第13回：学習と動機づけ：学習意欲とは何か |
| 第14回：動機づけの規定因：何が学習意欲に影響を与えるか |
| 第15回：学級という集団、定期試験 |